トイレ用洗剤のお話し（追加）

「トイレの洗剤」と書かれた洗剤が、世の中には、たくさんあります。
それには主に**【中性・酸性・アルカリ性】**のどれかが書かれていますが（主に裏面）、
使い方や組み合わせを間違えると、**「汚れが落ちにくい」「素材を痛める」**
「有毒ガスが発生し、死に至る危険性がある」など、リスクがあります。
そこで、以下をよく読んで、ご注意ください。

中性洗剤

毎日の清掃や汚れが少ないトイレには、中性洗剤で十分です。
その方が安全で、環境汚染も少ないです。

便器内・便器周辺・床・壁などに効果的です。
例：花　　王「トイレクイックル」
　　ライオン「まめぴか」　　など）

酸性洗剤

酸性洗剤は主に**オシッコの汚れに効果的**で、**（尿石・尿ハネなど）**
その汚れは便器のフチ裏に溜まっています。
ただし便器のフチ裏にはカビ汚れも溜まっています。
カビにはアルカリ性の洗剤が効果的です。

つまり、酸性洗剤とアルカリ性洗剤の両方が効果的です。
しかし酸性洗剤にアルカリ性で「塩素」が含まれている洗剤が
混ざった場合に有毒ガスが発生してしまいます。
※塩素系漂白剤（アルカリ性）には酸素系と塩素系がありますが、
　塩素系漂白剤に酸性の成分が触れると有毒ガスが発生します。
　死に至ることもあり、大変危険です。

そこで、以下を推奨します。

- 塩素が入っていない洗剤を選ぶと安全です。
  酸性洗剤は塩酸等の劇毒物を使用せず**「クエン酸」**が安全かつ安価です。
- 塩素が入ったアルカリ洗剤を使う時に、同時にクエン酸洗剤を使わないよう注意して下さい。
  どうしても使いたい時は、しっかり前に使用した酸性洗剤を、水で十分に洗い流してから使うよう注意してください。
- 汚れが頑固で落ちにくい時には、数回にわたって使うと良いでしょう。
- 最後に水拭きしましょう。
- 「クエン酸」は軽めの汚れなら、鏡や水栓金具にも効果的です。
  （最後に水拭きを忘れないようにしましょう。）

アルカリ性洗剤

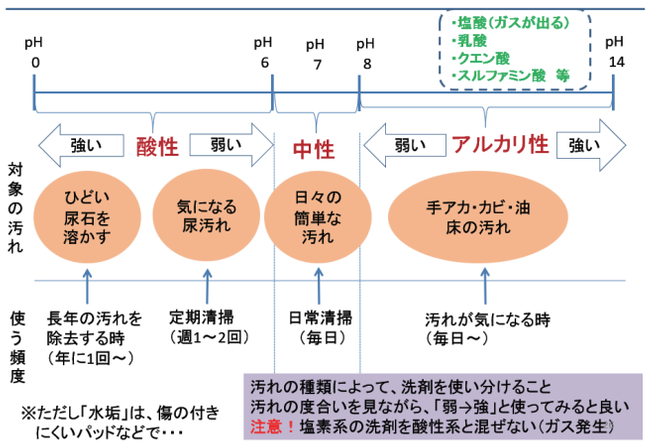
アルカリ性洗剤は、主に**カビ・手垢・油汚れに効果的**です。
トイレの中では、便器のフチ裏に発生したカビ汚れや、人が触るリモコン等の手垢に効果的です。

ただし塩素が含まれたアルカリ洗剤と酸性洗剤を一緒に使うと、有毒ガスが発生して危険ですので、一緒に使わないようにしましょう。
どうしても使いたい場合は、十分に水で洗い流しましょう。

ここでは、上記でご紹介した「クエン酸」と同時に使っても安全な**「重曹水」**を推奨します。
「重曹水」は、重曹（＝炭酸水素ナトリウム）を水で薄めたものです。効果的で安価です。

リモコンや温水洗浄便座に使う場合には、スプレーを直接電子機械にかけるのではなく、マイクロファイバークロスや使い捨ての紙などに含ませてから使いましょう。

■トイレ用洗剤の種類と範囲

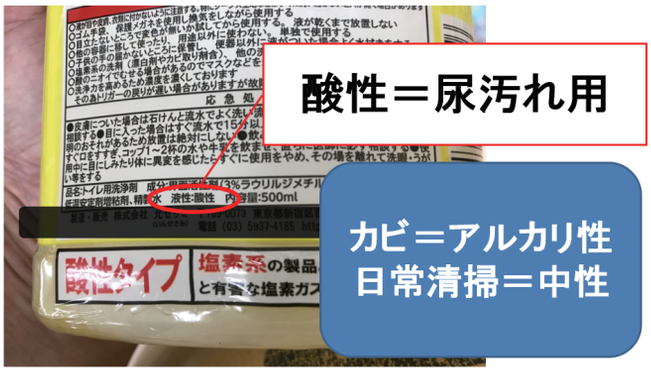


※ただし「水垢」は、傷の付きにくいパッドなどで・・・

汚れの種類によって、洗剤を使い分けること
汚れの度合いを見ながら、「弱→強」と使ってみると良い
注意！塩素系の洗剤を酸性系と混ぜない（ガス発生）

■トイレ用洗剤の見分け方

洗剤の裏に書いてある表示を見てみよう！



水垢対策

水垢（例：サボったリング）は、上記の洗剤では落ちないか、色が薄まるだけです。
研磨剤を使用すると、表面を傷つけています。
そこで**「重曹の粉を使って擦る」「紙ヤスリ（1000 番）で、弱い力で擦る」「市販の水垢専用バー（1800 円程度）を購入する」**と良いでしょう。

除菌対策

感染症の流行期には、**「どんな感染症から守りたいのか？」**により、必要なものが変わるので、その都度、ご確認ください。
取り扱いの際には、それぞれの用法に従ってください。

例　・「ウイルス」類 … アルコール・エタノール
・「　菌　」　類 … 次亜塩素酸ナトリウム・次亜塩素酸水
塩化ベンザルコニウムを含む 9 種類の界面活性剤　等

※7/6 時点　国の発表を随時ご確認ください。